

カメラあらかると

ま ち の 出 来 事



青空の下で「お城」を堪能 (4月12日 城見橋駐車場・備中松山城)

「第4回たかはしお城まつり」(同実行委員会主催)が開かれました。メイン会場の城見橋駐車場では、火縄銃の空砲演武や備中松山藩旗行列、地元団体によるステージ発表などが行われ、大勢の来場者を楽しませていました。

また、この日は備中松山城天守が無料開放となり、普段は入れない二重櫓も公開。クイズラリーや、地元ヒーロー・ピッチュマンと巡るお城探検ツアーもあり、家族連れらでにぎわっていました。

紙ひこうき 飛んでいけー (5月5日 うかん常山公園)

こどもの日、「第2回紙ひこうき大会」(風の会主催)が行われ、約30人の子どもたちがそれぞれのクラスに分かれて飛行距離を競いました。子どもたちは家族らの声援を受けながら、大空めがけて紙ひこうきを懸命に飛ばしていました。



勇壮・華麗な舞に魅了 (4月26日 日名交流館かぐら)

江戸時代後期に現在の備中神楽の基礎を確立した西林国橋を顕彰する、恒例の「国橋まつり大神楽大会」(同実行委員会・成羽備中神楽振興会主催)が開かれました。

「猿田彦命の舞」や「国譲り」「大蛇退治」などの演目が披露され、訪れた多くの神楽ファンらは、県内の名神楽太夫の熱演にじっとりと見入っていました。



弥高山の自然を満喫

(4月26日 弥高山公園)

「弥高つつじ祭り」(川上町観光協会主催)が行われました。あいにくの風雨に見舞われましたが、ステージでは渡り拍子、ストリートダンス、子供神楽などが行われ、会場を大いに沸かせました。

会場内では地元出身の中嶋尚文さんがチェーンソーで丸太を削り、フクロウやコイを制作したほか、トライアルバイクのショーも行われ、障害物に次々と飛び乗るオートバイの妙技に大きな歓声が上がりました。



子どもたちが神楽の競演

(5月3日 成羽総合福祉センター前特設神楽殿)

未来の神楽師を目指す子どもたちによる神楽の競演「近郷子供神楽大会」(なりわ観光協会主催)が開かれました。今年は、地元の成羽備中神楽育成会のほか、ふると芳井子供神楽など4団体が猿田彦命の舞などを披露。集まった来場者は、熱演する子どもたちに大きな声援を送っていました。



天気も眺めも最高

(4月19日 たかうね桜の森公園)

宇治町で「第7回たかうね桜まつり」(同実行委員会主催)が開かれました。会場の公園は、標高350mの高台に地域の人たちが2001年に2001本の桜を植えて整備。特設舞台では地元グループの大正琴、安来節保存会関西支部による踊りなどがあり、訪れた家族連れらは、演芸や高台からの眺めを楽しんでいました。

子どもたちに豊かな自然を

(5月4日 中井町佐伏川)

「清掃とマス釣り大会」が開かれました。子どもたちに豊かな自然を残そうと活動している同町の「清流を守る会」が主催するゴールデンウィークの恒例行事です。

参加者は、集合場所の方谷の里ふれあいセンターから、川沿いのごみを拾いながら釣り場へ移動。マスとヤマメ計3800匹が放流された釣り場では、あちこちから歓声が上がっていました。



ニューピオーネスクール開校

(5月1日 松山)

新しくニューピオーネの栽培を始める人や新規就農を目指す人、営農支援を考える人を対象に、収穫までに必要な技術を1年間かけて習得してもらう「ニューピオーネスクール」が開校しました。

1回目のこの日は開校式と芽かき作業の研修が行われ、26組の受講生が参加。受講生は指導員から説明を聞いた後、早速作業に取りかかりました。